

すずらん通信

Vol.46
令和4年
8月8日
発行

不登校相談会

6月11日、今年度最初の不登校相談会が青少年センターで行われました。毎年、鈴蘭学園の相談ブースもありますが、開催地が横浜なので相模原からは来る人はいませんでした。しかし、今回は3名の方が相模原から来られて、切実な思いで相談をされていました。その後、鈴蘭学園への来所につながった方もいれば、相模原市教と連携して行われる「不登校を考えるつどい」にも来ていただき、そこでさらに相談をされた方もいました。お困りのことがあれば、何度でも構いませんので、1人で抱え込まずに誰かにお話をして下さい。きっとヒントやきっかけに繋がりますよ。

(中村 鳴美)

少し値が張りますね。何事もなく町田駅に到着し、解散となりました。お疲れ様でした。おうちに帰ったら今日の話を親御さんにして、ゆっくり休んで下さい。

(中村 鳴美)



新江ノ島水族館

本来は7月6日に行く予定でしたが、台風接近とともない、1週間延期してのお楽しみ会となりました。

7月13日、この日も朝はしとしとと雨が降っていましたが、片瀬江ノ島駅に着いた頃にはすっかり雨が上がり、傘が邪魔となりました。新江ノ島水族館では、お誕生日の人にちょっとしたプレゼントをくれる企画があります。延期前の7月6日にちょうどお誕生日の子どもがおり、プレゼントをもらう予定になっていました。残念なことに台風で延期になってしまったのですが、事情を説明したところ、なんと、プレゼントをいただけることになりました！よかったね！

さて、水族館は室内でエアコンも効いていて、見学するにはとても良かったです。子どもたちも端から端まで十分に堪能できたようです。中村も久しぶりにイルカショーや亀ショーを見て楽しみました。ペンギンショーを見た子もいましたが、中村は見られなかったのでもって残念でした。帰りにはお土産屋さんに行きました。ぬいぐるみはいつ見てもかわいいのですが、

鈴蘭学園15周年記念式

7月18日。鈴蘭学園15周年記念式を開催しました。フリースクールや教育行政関係者の方々をお招きした1部、鈴蘭学園の利用者、OB・OGを招いてビンゴ大会を開催した2部と、2部構成で執り行いました。お越しいただいた皆様、惜しくもお越し頂けなかった皆様も、誠にありがとうございました。以下にそれぞれの会の内容をご報告します。



◆1部

副理事の桑原による司会で予定通りに始まりしました。壇上にお立ちいただいた皆様、素敵なお言葉ありがとうございました。感謝で胸が一杯になり涙が溢れました。今まで出会った人から学んだ温かい人柄を軸にしながら、これからも鈴蘭学園を大切にしていきたいと思います、と涙ぐみながら深々と挨拶をして終わりました。

◆2部

2部で開催したビンゴ大会では、用意した景品をプレゼントする他、ビンゴになった子たちに近況を聞くインタビューを行いました。

今どんな活動をしているのか、今の興味関心は何か、将来は何を目指しているのか、その答えを聞き、改めて皆成長して立派になったのだと実感しました。そんなインタビューもありのビンゴ大会はなかなかの盛り上がりを見せました。

この式典に集まってくれた人々を見て、鈴蘭学園及びリリーベルを支えてくれた多くの繋がりがあのだと、改めて実感することができました。そのような機会となったことに、この式典をやって良かったと心から思いました。（中村 鳴美、佐野 拓哉）

支援のこれまでとこれから

鈴蘭学園ができた当初は、不登校だけでなく非行傾向のある子どもも対象としていました。15年も前だと、今より非行傾向のある子どもが目立っていたので、不登校というより非行傾向のある子どもが通っていました。しかし、それも2年ほどが過ぎると、だんだんと不登校の子どもが増えてきました。鈴蘭学園にもちらほらと不登校の子どもが通い始め、徐々に非行傾向の子どもの問い合わせはなくなっていきました。その頃の不登校の傾向は、やはりというかいじめや、担任と合わないといって学校に行けなくなった子どもが多かったように思います。それから8年が経ち、子どもたちの不登校要因に変化が現れ始めました。友だちと上手く関われない、勉強についていけないなど、個人の要因が目立つようになり、社会でも発達障がい問題視され始めました。鈴蘭学園でも、これを踏まえて子どもたちと接していくには、福祉的要素を取り入れていかなければとの考えに至り、10年目に放課後等デイサービスを始めました。フリースクール、放

課後等デイサービスと2か所の運営となりましたが、どちらも不登校児童を対象としています。両事業所とも、これからの社会にはなくてはならない存在価値を生み出したいとの思いがあります。

運営をしていく中で、医療関係からの紹介が多くなってきました。元々、私は心理学を学び、それを糧に子どもや親御さんとの関わりを持てないかとフリースクールを立ち上げたのですが、途中から心理だけではなく、他の分野と連携して共に支える必要があると感じていました。ここに来て、ようやく様々な機関との連携が目に見える形になってきたと感じています。この15年の中で、教育・福祉・心理・医療と4つを組み合わせ、個の人間を生物心理社会モデル^注でとらえることがようやくできるようになってきました。この「多分野で連携する」という支援方法は、今では私や鈴蘭学園に携わっている人たちに共通する考えとなっています。

そして、私たちの活動を周知することの難しさは今も昔も変わらずで、15年間様々な機関にアピールしてきましたが、まだまだ十分に行き渡っているとは思えません。もっともっと周知をしていくためにはメディアに進出したいとも思っていました。今はネット社会です。ネットを使って自由に露出できる時代なので、これも大いに活用したいと思います。また、ネットの時代の流れの中でも、「家族に笑顔を取り入れていきたい」そう思う気持ちで、私は変わらず子どもや親御さん一人一人と丁寧に向き合っていきます。

最後になりますが、これからも笑顔で過ごせる社会の実現を目指して、フリースクール鈴蘭学園を発展させていきたいと思いますので、皆さまの応援よろしくお願いします。（中村 鳴美）

注：アメリカの精神科医ジョージ・エンゲルが提唱した、人間を生物的側面、心理的側面、社会的側面から統合的にとらえようとする枠組み。

リリーベル活動報告

リリーベルでは新しく利用を始めた仲間が増え始め、少しずつ賑わいを見せています。まだリリーベルに慣れない日々だと思いますが、無理せず、自分のペースで、リリーベルでの活動を楽しんで頂けたらと思います。

リリーベルの畑では玉ねぎや大根、ジャガイモが収穫できました。子どもたちも収穫を手伝ってくれ、予

想以上の収穫量になりました。収穫した野菜は調理に使ったり、玉ねぎは紐で吊るして干したり、大根は薄く切って切り干し大根にするなど、野菜を長く使えるように工夫して保存しています。新たに落花生とそばを植えたので、できるのが今から楽しみです。

調理活動では6月ではババロアやマフィンなどのスイーツ作りやミニピザ、キャベツ焼き、ジャンボ餃子などを作りました。7月では星空をイメージした天の川ようかんや彩り豊かな七夕そうめんを作るなど、七夕をイメージしたものを作って食べました。他にも手巻き寿司やそうめんチャンプル、ヨーグルトシャーベットやきなこ棒などのスイーツも作りなど、毎月おいしさあふれる活動となりました。リリーベルでの調理活動に初めて参加した人もいましたが、自分のできるところから少しずつ参加しできる幅を広げています。

6月に小山内裏公園へハイキングに行きました。ここではザリガニ釣りができるとのことで挑戦してみましたが、残念ながらザリガニは一匹も釣れませんでした。ザリガニ釣りのリベンジに燃え、7月に忠生公

園に行き、ザリガニ釣りに再チャレンジしたところ、5匹も釣れる成果となり、リベンジを無事果たすことが出来ました。

7月上旬、北里大学にあるアクアリウムに見学に行きました。海洋学部の学生の方々が手掛けたアクアリウムや展示物があり、様々な種類の海の生き物を見ることができました。中には魚に触れるコーナーがあり、子どもたちが素早く動く魚を必死に触ろうと頑張っていました。暑い日々が続く中、とても涼しげな雰囲気を楽しみました。

暑さが厳しく外での活動がなかなかできない中、リリーベルではパステルアートや切り絵に挑戦して見る機会がありました。題材や色選びが良かったり、器用に紙を切り抜く場面を見られるなど、それぞれの芸術センスを見て取れる日々となりました。パステルアートや切り絵を初めて経験した子が多くいましたが、皆意欲的に参加していました。初めての経験を積極的に取り組む子どもたちの姿勢を見て、私も何か新しいことにチャレンジしてみようかなと思った日々でした。(佐野 拓哉)

中村のちょっと感動した話

15周年記念式当日に、出席のキャンセル電話が入りました。鈴蘭学園を設立してから3人目の子でした。その子に会えると、とても嬉しく思っていたので残念でした。その子は、今は保育士として頑張っているそうです。感染症が流行する中で、保育所でもクラスターが増えて来ているので、中村先生や来られる人たちに感染させてはいけなと迷いに迷ったの決断だと言われました。私は、そんな決断ができるまでになったんだなと感動しました。14年前は、外に出る事さえも怖がっていた子が、こんなにも大きくなったんだなと。改めて、人間の成長の偉大さを感じました。

これからも人を思いやる心と自分を大切に作る心を持ち続けて下さいね。いつでも遊びに来て下さい。



お悩みの方、ご相談ください。

自信・活力・自分らしさを取り戻すため、あなたと共に問題に向き合います。
まずは、ご相談ください。

相談専用ダイヤル TEL：042-733-0015

電話相談事業は、神奈川県フリースペース等補助金により運営しています。